「組織力向上のためのナレッジマネジメント」

11 月 23 日（土）　13：50～15：20
会場：第 2 会場（3 階　講義室 302）

亀田メディカルセンター
村永　信吾

司会
こしの医院
西潟　央

「組織力向上のためのナレッジマネジメント」

【講師略歴】

氏　　名： 村永　信吾
所　　属： 亀田総合病院リハビリテーション事業管理部
専門分野： 教育管理,生活環境支援
活 動 歴： 理学療法管理学　南山堂出版（共著,2018）
日本理学療法士協会指定規則検証委員会（2018）
日本理学療法士協会賞受賞（2019）

【講演要旨】

ナレッジマネジメント（知のマネジメント）とは、メンバー一人一人が保有する個人知と、それらを集約した組織知の 2 つの知を相互に補完しながら、課題解決や人材育成に活用することを目的とした管理手法の一つである。

ナレッジ（知）とは、保有資格に加え、図書、ジャーナル、さらにはマニュアル類、など文書化が可能な「形式知」と、各メンバーが経験で培った気づきや知恵、さらには組織風土や組織文化といった文書化が困難な「暗黙知」の 2 つに分けられる。形式知の場合、定期的に図書や雑誌を更新することで知の最新化やメンバー間での情報共有が可能となる。一方、暗黙知の場合は、各メンバーの内面に蓄積されているために、意識的に言葉や文書に表出しなければ、その知を共有することは困難である。そのためメンバーの退職とともにその知が組織から消失することとなる。そのため組織知向上には職員の定着を図ることも重要な課題となる。

我が国の社会環境は、少子高齢化の進展、家族形態の変容、さらに働き方の多様化など大きく変化してきている。理学療法現場においても、365 日体制、疾患群別専門チーム、病棟専従、さらには働き方改革などが進められていることから、勉強会や指導時間、さらに研究時間の縮減など、空間的、人的、時間的制約の中でナレッジの移転や議論を通した知の移転や創造の機会が少なくなっている。このような社会環境（制約）の中で、組織ミッションを達成する力を組織力と定義するならば、そのような制約を踏まえたナレッジの蓄積や活用のための仕組みづくりと人材育成の推進が求められる。

今日の ICT（Internet Communication Teqchnology）、モバイル化、クラウド化などの情報通信技術（IT）は、日進月歩で発展し、医療や介護場面で活用されてきている。我々理学療法士の職場環境も電子カルテなどの IT 化が進んできている。このような IT 技術を適切に活用できれば、制約下における組織力向上のためのナレッジマネジメントの有効なツールとなることは言うまでもない。

そこで今回は、当院で組織力向上を目指して取り組んでいる職場教育及び働き方改革などへの ICT を活用したナレッジマネジメントについて紹介したい。